

日本赤十字社 本社を訪問

医療事業推進本部経営企画課長に事業説明

浜松町大門のホテルから数分の処に外観が煉瓦色の落ち着いた日本赤十字社本社の社屋がある。

令和6年6月3日午前、社屋の門をくぐると、直ぐ横に「殉職救護員慰霊碑」があり、立ち止まり、黙礼して正面玄関に約束の時間に到着。1階ロビーの受付で来意を告げると、2階応接室に案内され、医療事業推進本部・経営企画部・経営企画課長の古源さんと同課の池澤さんとの面談が始まる。

面談後、同じ階に展示してある「ソルフェリーノの啓示」を鑑賞した。この作品は東郷青児（1934（昭和9）年・没）が現地を訪れ、構想を練って描いた176×286センチの油彩カンバスです。やはり、本物は素晴らしい。

熱心に説明に耳を傾けた古源課長は、

大変有り難いことで感謝していますと丁寧なお言葉を戴き、うれしさがいっぱいになった。

面談後、同じ階に展示してある「ソルフェリーノの啓示」を鑑賞した。この作品は東郷青児（1934（昭和9）年・没）が現地を訪れ、構想を練って描いた176×286センチの油彩カンバスです。やはり、本物は素晴らしい。



殉職救護員慰霊碑



1階 ロビー、アンリー・デュナンと佐野常民の胸像

お二人の対応に感激し、お礼を申しあげ、本社を後にした。

旅の余談

今回の旅はこのほかに、KYO33東京ミーティングの事務局として企画を担当、そして上京することであった。

網走の向陽高校を昭和33年に卒業した在京の同期生3人との小宴でしたが、浜松町の居酒屋で懐

かしなく大いに、盛り上がり、夜の更けるまで楽しんだ。ただ、二人の同期生が直前に体調不良で欠席したのが残念である。

またNHKホールでジョンウイリアムズの楽曲を日本フィルハーモニー交響楽団の演奏で楽しみ、帰途、札幌芸術の森美術館で遠藤彰子の展覧会を鑑賞した。

今年5月8日、「病院食で健康づくりに貢献 振興局、北見赤十字を表彰」の記事が北海道新聞に掲載された。

この事は本紙の記事になると、同院の井田栄養課長さんの協力を戴き、1面で特集を組んだ。

「第8回北見での思い出づくりの集い」はお天気に恵まれ、令和6年7月28日（日）、事故も無く無事に終了した。それを2、3面で取り上げた。このイベントは長く続いているので、今回はその始まりにスポットを当てた。また毎年10万円ほどの予算で実施しているが、過去にその資金手当ての壁に阻まれ、例会が紛争し、大変な時期もあったが、これからも、会のレガシーとして継続する事をここで再確認したい。

上 経営企画課長と課員・下 油彩画「ソルフェリーノの啓示」の前で



編集後記